

令和5年度 研究の概要

B①グループ

㊦ 港北中 田中慎太郎 山田中 永田 健太 大曾根中 飯田 和志
千鳥丘中 高柳潤也 久方中 横川 大我 守山東中 戸谷 颯斗

振り返り活動から学習を改善することができる生徒の育成

1 研究のねらい

日頃から、授業で学んだことについて自分の学習を振り返る活動を行っている。しかし、振り返り活動の様子を観察していると、よりよい解法を見つけようとしたり、考え方を深めようと考察したりしている生徒は少ない。それは、生徒がどのように解法を振り返ればよいか分からないことが原因と考えられる。

そこで、振り返り活動をよりよいものにするために、振り返りの視点を与え、その視点から解法を振り返らせることで、自らの解法の改善点を明確にできるようにさせたいと考えた。また、自分の振り返りだけでなく、他者の解法を振り返らせることで、自分が考えた解法以外の様々な解法について、その良さや改善点に気付かせることができ、自らの解法への課題に生かすことができると考えた。

このように評価基準による視点を設け、振り返り活動を行い、その振り返りが自己の理解度の向上につながるようにするための指導法について研究を進めていくこととした。

2 研究の内容

(1) 自己評価活動による振り返り

振り返り活動において、ルーブリックによる4段階の評価基準を振り返りの視点としてつくり、その評価基準から自分の解法を振り返らせることで、自らの解法の改善点を明確にさせる。

(2) 他者評価活動による振り返り

ルーブリックによる4段階の評価基準を振り返りの視点として、その評価基準から他者の解法を振り返らせ、その良さや改善点を考えさせることで、自らの解法の改善点を明確にさせる。